

『まあ其様云われると妾わらわいが辛いワ。いゝえナ別に友達の交際をするなと云ふのや無いけれど、何ぢやろと内の人は癖が悪い、出たら鐵砲玉で歸る事を忘れて仕舞ふ物やさかい、此様喧こゑしふ云ひまんのや、そんなら貴所に預けるさかい、屹度連れて歸つとくなはれや。』

『諾しや引請ける。そんなら鳥渡借るで。』

『明いたら返しとくなはれや。』

『釘抜きやがナ全で。オイ喜イ公、そんな處で慄ふてんと早ふ出といで。』

『そんなら、モウお聽き届けになつたか。』

『怪つ態な物の云ひ方をすない。さア出掛けよか。』

『フム。そしたら喚、鳥渡遣つて貰ふで。』

『早ふ歸つて來ふぞ。』

『へー。』

『阿呆。へーや云ふない。丁稚せんじやがナ。』

『お前そない云ふけれど内のお嘆恐いねで。今日はお前が居て呉れた依てにあれで済むだが、お前が居なんだら何様目に逢ふとするか解らへんね。』

『そない怖いのんか。』

『怖いの怖ふ無いのて、モウ往時せんじの事やみな思ひ出しても戰慄せんりとするワ。』

『どない仕たんやいナ。』

『こちの人、晚のお菜にするのや依てに焼豆腐買ふて來とう。諾しや云ふて笊持いなかつて飛で出るなり豆腐屋へは往たんやが、慌てゝ蒟蒻買ふて戻つたんや。』

『阿呆やなア。』

『笊いなかの中を見るなり嘔の顔色がサツと變たもんや依て、アツこら間違ふたんやナと思ふて、嘔、間違ふたんなら直ぐ替えて貰ふて來るワ云ふて、今度は葱買ねぶかふて來たんや。』

『念の入た慌て者やなア。』

『今度は嘔怒りよらへん。ニタツと笑ふてナ。あゝ大きに憚りさん、さア此方へお來なはれ。と斯様云ひよる。急に優しい云はれると尙更氣味が悪い。嘔、忘れたんや依て買ふて來る物モウ一遍丈け云ふてんか、云ふたら、まあ何でも良え此方へお來なはれ、云ひ〳〵俺の際へ寄て來て首筋グツと引摺むなり奥の間へズル〳〵と引摺て往きよつたんや、えゝい拗ねくろしいせんと來い云ふたら直ぐ來るもんや。なア〳〵云ふてたら良えかと思ふて、ウカ〳〵してゐるさかいに此んな間違ひが出來るのんや、今日は土性根に入る様にしたる云ふなり、着物をぐる〳〵と脱がして仕舞ふて俯伏うぶくつに押えつけやがんね。どない成るのんやろと思ふたら、何時の間に持て來よつたんやら蓬芽よしめの袋と線香と出しやが